

## お父さんのガソリン

昭和五十三年度 二年 女児

夜お父さんが会社から帰ったので、みんなで夕ごはんを食べました。お父さんが

「ガソリンをください。」といいました。お母さんは土びんにお酒を入れてガスであたためました。

お父さんはじっと土びんを見ていました。わたしがどうして土びんばかり見ているのかを聞くと

「あれはおとうさんのガソリンだぞ。」と言ってニヤニヤしているだけです。

わたしは、何であんな土びんがガソリンなのかふしぎで、お父さんにまた聞いてみました。お父さんは大きな声でわらいながら、

「あれはお酒だよ。」といって、よろこんでいました。

わたしはあとでお母さんにそのわけを聞いてみました。

お母さんは

「車や船とおんなじだよ。ねんりょうになるんだよ。」  
といいました。

車や船は、ねんりょうを入れなければ動かないし、お父さんはお酒を飲むと元気で働くことができるんだなあと思いました。

わたしのお父さんは、土びんに入れてガスで温めたお酒をたからもののように、だいじにしながらよろこんでいます。